

6 工事の実施に伴う廃棄物等及び温室効果ガスの実績

6-1 廃棄物等

工事の実施に伴う、建設発生土及び建設廃棄物の発生量及び再資源化の状況は、次のとおりである。

6-1-1 集計項目

集計項目は、工事の実施に伴う、廃棄物等の状況（建設発生土及び建設廃棄物）とした。

6-1-2 集計方法

集計方法は、各工事における施工実績やマニフェスト等による確認とした。

6-1-3 集計対象箇所

集計対象箇所は、第一中央自動車道架道橋ほか、笛吹川・濁川橋りょう他、高架橋（小井川線路橋）、釜無川橋りょう他、高架橋（利根川公園交差部）、第三南巨摩トンネルほか、第四南巨摩トンネル（東工区）ほか、第四南巨摩トンネル（西工区）、南アルプストンネル（山梨工区）とした。

6-1-4 集計期間

集計期間は、令和3年度から令和5年度とした。

6-1-5 集計結果

集計結果は、表 6-1-5-1 及び表 6-1-5-2 に示すとおりである。

表 6-1-5-1 建設発生土の発生量

主な副産物の種類	発生量 ^{注1}	
	建設発生土	令和3年度
令和4年度		約 535,000m ³
令和5年度		約 512,000m ³
合計 ^{注2}		約 1,282,000m ³

注1：建設発生土の発生量は、ほぐし土量である。

注2：端数の関係で、合計値が一致しない場合がある。

表 6-1-5-2 (1) 建設廃棄物の発生量及び再資源化の状況 (令和3年度)

主な副産物の種類		発生量	再資源化等の量 ^{注1}	再資源化等の率 ^{注2}
建設廃棄物	建設汚泥	約 3,470m ³	約 3,470m ³	100%
	コンクリート塊	約 3,880m ³	約 3,880m ³	100%
	アスファルト・ コンクリート塊	約 370m ³	約 370m ³	100%
	建設発生木材	約 2,660t	約 2,660t	100%

表 6-1-5-2 (2) 建設廃棄物の発生量及び再資源化の状況 (令和4年度)

主な副産物の種類		発生量	再資源化等の量 ^{注1}	再資源化等の率 ^{注2}
建設廃棄物	建設汚泥	約 4,990m ³	約 4,990m ³	100%
	コンクリート塊	約 4,190m ³	約 4,190m ³	100%
	アスファルト・ コンクリート塊	約 670m ³	約 670m ³	100%
	建設発生木材	約 830t	約 830t	100%

表 6-1-5-2 (3) 建設廃棄物の発生量及び再資源化の状況 (令和5年度)

主な副産物の種類		発生量	再資源化等の量 ^{注1}	再資源化等の率 ^{注2}
建設廃棄物	建設汚泥	約 7,690m ³	約 7,690m ³	100%
	コンクリート塊	約 2,490m ³	約 2,490m ³	100%
	アスファルト・ コンクリート塊	約 260m ³	約 260m ³	100%
	建設発生木材	約 980t	約 980t	100%

表 6-1-5-2 (4) 建設廃棄物の発生量及び再資源化の状況 (令和3年度～令和5年度合計)

主な副産物の種類		発生量	再資源化等の量 ^{注1}	再資源化等の率 ^{注2}
建設廃棄物	建設汚泥	約 16,150m ³	約 16,150m ³	100%
	コンクリート塊	約 10,560m ³	約 10,560m ³	100%
	アスファルト・ コンクリート塊	約 1,300m ³	約 1,300m ³	100%
	建設発生木材	約 4,470t	約 4,470t	100%

注1: 「再資源化等の量」の定義は以下のとおりとする。

- ・コンクリート塊及びアスファルト・コンクリート塊: 再資源化された量と工事間利用された量の合計
 - ・建設汚泥、建設発生木材: 再資源化及び縮減された量と工事間利用された量の合計
- なお、再資源化された量、再資源化及び縮減された量は、運搬先の施設ごとに、発生量にその施設における項目ごとの「再資源化された割合」、「再資源化及び縮減された割合」の実績値を乗じて推計した。

注2: 「再資源化等の率」はそれぞれの項目について「再資源化等の量」を「発生量」で除した値(再資源化率または再資源化・縮減率)を示す。

6-2 温室効果ガス

工事の実施に伴う、温室効果ガスの排出の状況は、次のとおりである。

6-2-1 集計項目

集計項目は、工事の実施に伴う、温室効果ガスの排出の状況とした。

6-2-2 集計方法

集計方法は、各工事における施工実績や電力会社発行の使用明細等による確認とし、二酸化炭素（CO₂）換算で算出した。

6-2-3 集計対象箇所

集計対象箇所は、第一中央自動車道架道橋ほか、笛吹川・濁川橋りょう他、成島保守基地ほか、高架橋（小井川線路橋）、釜無川橋りょう他、高架橋（利根川公園交差部）、第三南巨摩トンネルほか、第四南巨摩トンネル（東工区）ほか、第四南巨摩トンネル（西工区）、早川橋りょう、南アルプストンネル（山梨工区）とした。

6-2-4 集計期間

集計期間は、令和3年度から令和5年度とした。

6-2-5 集計結果

集計結果は、表 6-2-5-1 に示すとおりである。

表 6-2-5-1(1) 温室効果ガス (CO₂換算) 排出量の状況 (令和3年度)

区分		温室効果ガス (CO ₂ 換算) 排出量 (tCO ₂)		
		小計	行為別合計	
建設機械の稼働	燃料消費 (CO ₂)	7,839	13,415	
	燃料消費 (N ₂ O)	58		
	電力消費 (CO ₂)	5,518		
資材及び機械の運搬に 用いる車両の運行	CO ₂	7,428	7,466	
	CH ₄	3		
	N ₂ O	35		
建設資材の使用	CO ₂	37,271	37,271	
廃棄物の発生	焼却	CO ₂	5	6
		N ₂ O	0	
	埋立	CH ₄	1	
CO ₂ 換算排出量の合計			58,158	

注1：四捨五入して「0」となった場合は「0」と記載した。

表 6-2-5-1(2) 温室効果ガス (CO₂換算) 排出量の状況 (令和4年度)

区分		温室効果ガス (CO ₂ 換算) 排出量 (tCO ₂)		
		小計	行為別合計	
建設機械の稼働	燃料消費 (CO ₂)	19,330	27,917	
	燃料消費 (N ₂ O)	143		
	電力消費 (CO ₂)	8,444		
資材及び機械の運搬に 用いる車両の運行	CO ₂	9,152	9,198	
	CH ₄	4		
	N ₂ O	42		
建設資材の使用	CO ₂	53,202	53,202	
廃棄物の発生	焼却	CO ₂	3	5
		N ₂ O	0	
	埋立	CH ₄	2	
CO ₂ 換算排出量の合計			90,322	

注1：四捨五入して「0」となった場合は「0」と記載した。

表 6-2-5-1(3) 温室効果ガス (CO₂換算) 排出量の状況 (令和5年度)

区分		温室効果ガス (CO ₂ 換算) 排出量 (tCO ₂)		
		小計	行為別合計	
建設機械の稼働	燃料消費 (CO ₂)	20,735	30,340	
	燃料消費 (N ₂ O)	153		
	電力消費 (CO ₂)	9,452		
資材及び機械の運搬に 用いる車両の運行	CO ₂	8,728	8,775	
	CH ₄	4		
	N ₂ O	43		
建設資材の使用	CO ₂	54,474	54,474	
廃棄物の発生	焼却	CO ₂	2	7
		N ₂ O	0	
	埋立	CH ₄	5	
CO ₂ 換算排出量の合計			93,596	

注1: 四捨五入して「0」となった場合は「0」と記載した。

表 6-2-5-1(4) 温室効果ガス (CO₂換算) 排出量の状況 (令和3年度~令和5年度合計)

区分		温室効果ガス (CO ₂ 換算) 排出量 (tCO ₂)		
		小計	行為別合計	
建設機械の稼働	燃料消費 (CO ₂)	47,904	71,672	
	燃料消費 (N ₂ O)	354		
	電力消費 (CO ₂)	23,414		
資材及び機械の運搬 に用いる車両の運行	CO ₂	25,308	25,439	
	CH ₄	11		
	N ₂ O	120		
建設資材の使用	CO ₂	144,947	144,947	
廃棄物の発生	焼却	CO ₂	10	18
		N ₂ O	0	
	埋立	CH ₄	8	
CO ₂ 換算排出量の合計			242,076	

注1: 四捨五入して「0」となった場合は「0」と記載した。